

## 大阪ふれあいおりがみ・すごろく活用のための授業用シナリオ（例）



1. ねらい ①障がいに関する基本的な考え方を理解すること。  
②障がいのある人に対する配慮や工夫について考えること。

2. 準備物 ①おりがみ、すごろく  
②授業用スライド（パワーポイント形式）  
（「大阪ふれあいキャンペーン」のHP からダウンロードできます。）

### 3. 授業の進め方

- ※1 主に小学校3年生を対象に作成していますが、学校のカリキュラムに応じて、中学年をはじめ他の学年でもご活用いただけます。  
※2 総時数2時間（2コマ）の想定で作成しています。  
※3 スライドは、適宜修正していただき、貴校のカリキュラムに合わせてお使いください。  
※4 スライドには、各ページごとに、詳細なシナリオが記載されています。

活動 (時間)	スライド 番号	進め方	進め方のポイント
<b>1 時間目</b>			
導入 (10)	1～4 「見たり 聞いたり したこと あるか な？」	○車いす、白杖、手話について、児童が見聞きしたことがあるかを質問。  ◆想定される回答◆ 電車、スーパー、テレビ、家族 など  ○（もし児童が答えられそうであれば）なぜ車いすや白杖、手話を使っているのかを質問。	○具体的な場面を想起することで、授業への興味を高める。
障がいに関する基本的な考え方 (10)	5～6 「障がいってなんだろう？」	○車いす利用者のスライドを見せ、なぜ困っているのかを質問。  ◆想定される回答◆ 段差があるから、車いすに乗っているから など  ○どうすれば階段を登れるようになるかを質問。  ◆想定される回答◆ スロープをつける、人が担ぐ など  ○スロープをかけるなど、周りの人のお手伝いや工夫で暮らしやすくなることを説明する。	○相手のことを考えてどのようなことができるか考えさせる。  ○車いす利用者が建物を利用しづらい場合、本人ではなく、 <b>建物の状況に原因がある</b> ということに気付かせる。 ※4ページ『障がいの「医学モデル」と「社会モデル」について』を参考にしてください。

障がいに関する基本的な考え方 (10)	7~10	○スライドに沿って説明	○障がいのある人たちも同じ街の中で生活していることに気付かせる。
クイズ (15)	11~29	○身の回りにあるマークについて、クイズ形式で進める。 ①障がい者のための国際シンボルマーク ②盲人のための国際シンボルマーク ③耳マーク ④手話マーク ⑤筆談マーク ⑥ほじょ犬マーク ⑦オストメイトマーク ⑧ハートプラスマーク ⑨身体障がい者標識 ⑩聴覚障がい者標識 ⑪ヘルプマーク  ○いくつ見たことがあったか質問する。  ○次の時間は、おりがみを使って勉強をすることを説明する。	○時間があれば、どこで見た事があるかを発言してもらおう。  ○手話も、日本語や英語と同様に、言語的コミュニケーションだということを説明。
<b>2時間目</b>			
おりがみの内容説明 (10)	30	○おりがみに書かれていることに沿って説明。  <理解を進めるべき順序と折り紙の難易度を考慮して、以下の順で進めていただくことが理想的> ①「いえ」→障がいに関する基本的な考え方を説明 ②「パクパク」→障がい特性を説明 ③「はこ」→ユニバーサルデザインの説明、実例 ④「はしぶくろ」→障がいに関するマークの説明  ※スライドの中で、「基本的な考え方」や、「障がいに関するマーク」は説明しています。	○いずれか1つを授業で取り上げて、残りは宿題や家庭学習とすることも可能です。その場合は、出来る限り振り返りの機会を作ってください。
おりがみ作成 (20)		○おりがみを作成する。	○おりがみを折るだけでなく、周りの児童と記載内容について会話を促す。

<p>まとめ (15)</p>	<p>32～35</p>	<p>○5枚のイラスト、写真を見て、困っている人がいたときに、どんなことができるか質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①車いすに乗った人</li> <li>②白杖を持った人</li> <li>③ヘルプマークをつけた人</li> <li>④筆談マークを持っている人</li> <li>⑤「エスカレーターは立ち止まってご利用ください」のポスター</li> </ul> <p>○最後のスライドで、相手のことを思いやって行動することが大切であることを説明する。</p> <p>○ふりかえりシートを記入する。(時間があれば、発表を行う。)</p>	<p>○困っているようであれば声をかけ、<u>本人の意思を確認</u>してからお手伝いすることが大切であることを考えさせる。</p>
---------------------	--------------	---	--

## 先生のみなさまへ

### ◆障がいの「医学モデル」と「社会モデル」について◆

授業の冒頭で、車いす利用者がなぜ困っているかを児童に質問していただきましたが、想定される回答には2つの視点があります。

まず、「足が不自由だから」「車いすに乗っているから」と、本人に理由があるとする視点があります。このような視点を障がいの「**医学モデル**」といいます。

一方、「階段があるから」「エレベーターがないから」といった、建物の状況に原因（社会的障壁）があるという視点があります。このような、障がいのある人が日常・社会生活で受ける制限は、本人が有する心身の機能の障がいのみ起因するものではなく、社会における様々な障壁と相対することによって生ずる、という考え方のことを障がいの「**社会モデル**」といいます。

※社会的障壁とは、社会における事物（通行、利用しにくい施設、設備等）だけでなく、慣行（障がいのある人を意識していない慣習、文化等）や観念（障がいのある人への偏見等）も含まれます。

かつては「医学モデル」の考え方が一般的でしたが、世界で障がいのある人の権利を守る動きが広がる中で「社会モデル」の考え方が出てきて、「障がい」について考える際の基本的な考え方になっています。

なお、6枚目のスライドに記載している「周りの人のお手伝いや工夫などで暮らしやすくなる」という考え方は、「社会モデル」の考え方に基づいています。

#### <障がいの捉え方>

	医学モデル	社会モデル
捉え方	障がいは、病気、ケガ等が原因の <u>個人的問題</u>	障がいは、社会環境によってつくり出される <u>社会的問題</u>
対応策	医師、指導員等の専門家による治療、指導	社会全体による意識改革、環境改善



障がいのある人の障がいだけに着目するのではなく、**障がいと環境との関係**で課題を捉える

#### ○参考：障がいの捉え方○

従来の「障害」の捉え方は、心身の機能の障害のみに起因するとする、いわゆる「医学モデル」の考え方を反映したものであった。一方、障害者の権利に関する条約では、障害者が日常生活または社会生活において受ける制限は、心身の機能のみに起因するものではなく、社会における様々な障壁と相対することによって生ずるものとする、いわゆる「社会モデル」の考え方が貫かれている。

出典：「障害者基本計画(第4次)」平成30年3月30日閣議決定